

# 若山牧水賞に2氏

## 黒岩さん「光のアラベスク」

表彰式は  
来年2月12日

松村さんのコメント

の名を冠した大きな賞

をいたぐり、このたびの思いがけない

短歌に励まされ、懇められた日々が胸

に響ひの中で、自分もま

をよぎり、万感の思

いです。若山牧水の歌の伸びやかな韻律は、

自然と人をこよなく愛

したおおらかな人柄を

思われます。その愛唱

性は、どれほど長く短

歌を詠み続けて到底

いえ、「幾山河越え

手の届くものではあり

ません。しかし、牧水

の頃から長嶋ファン

と憧れの地でした。長

嶋選手行きつけの、釜

揚げうどんのお店を訪

ねたいと思います。

若山牧水賞運営委員会(委員長・河野知事)はきょう、第24回若山牧水賞に歌人の松村由利子さん(59)「沖縄県在住」の歌集「光のアラベスク」(砂子屋書房発行)と、歌人で電通勤務の黒岩剛仁さん(60)「東京都在住」の歌集「野球小僧」(ながらみ書房発行)を選んだと発表した。

松村さんは福岡県出身。ナリストとして活躍。「与

31文字のなかの科学」で第5回平塚

科学ジャーナリスト賞

今年5月に発行。ジャーナリストならではの目線で、社会に対する関心や批判が随所に込められて

いるのが特徴的といふ。

県庁で会見した選考委員で歌人の高野公彦氏

は、「下駄箱がまだ学校にあるように活字という語も生き残るらんなど」の歌を挙げ、「経済中心で人間らしさを失う歴史に疑問を投げ掛け、いろんなことを考えさせられる」と評価した。

黒岩さんは大阪府出身で、早稲田大学第一文学部を卒業後、電通に入社。短歌結社「心の花」会員。作品は第3歌集として今

年6月に発行。「サラリーマン目線で身近な生活をユーモアに描いている。歌人の佐佐木幸綱選考委員は「飲み会の翌朝御禮に来たる者一人のみにてあとはメールぞ」など

の歌を取り上げながら、「職場の上下関係や外部との関係が分かりやす

い。酒の歌も多く、牧水賞にふさわしい」。同じく栗木京子委員は「生きづらさを前面に出すのではなく、人間への愛情を感じる」と述べた。

第15回に続きの回目と

なった2人同時の受賞について、牧水賞運営委員会は「ほぼ同じ年齢の男性と女性で、ジャーナリスト、サラリーマンと視点も異なるので、かなり賞としての幅が広がる」と講評した。

授賞式は来年2月12日午後3時から宮崎観光ホ

テルで開き、午後6時か

ら同ホテルで祝賀会を行う。受賞者は翌13日午前に日向市内の高校を訪問し、午後はカルチャープラザのべおかで受賞記念



松村由利子さん



黒岩剛仁さん

歌舞伎町で会見した選考委員は「飲み会の翌朝御禮に来たる者一人のみにてあとはメールぞ」など

講演を行う予定。

賞は日向市東郷町坪谷に生まれ、日本短歌史に偉大な足跡を残した若山牧水の業績を顕彰し、短歌文学界の発展に貢献することを目的に1996年に創設。全国の有力歌人約300人にアンケートを行い、上位に選ばれた歌集を審議した。

# 北方学園中1年生16人



「コットンを収穫する北方学園中の1年生(18日、延岡市野地町の五ヶ瀬川右岸堤防)」

## コノハナロードの綿を収穫 修学旅行先の京都で配布へ

延岡

延岡市の北方学園中学校(城戸義戸校長)の1年生16人は18日、同市野地町の五ヶ瀬川右岸側堤防のコノハナロードでコットン(綿)の収穫作業を行った。学校に持ち帰って乾燥させ、来年6月の修学旅行で取り組むPR活動に活用する。

コットンの栽培はNPO法人コノハナロード延岡市民応援隊(松田庄司代表)が実施。旭化成が世界で唯一製造している再生繊維「ベンベルグ」

が、「コットンリンター(綿の種の周りに付いている産毛)を精製・溶解して積み込んだ。不要な葉を取り除いて乾燥させる」と、実がはじけて白い花

のよう綿花が顔を出すという。

同校は来年6月の修学旅行で京都府を訪れ、そ

こで生徒たちが手作りしたPRパンフレットと一緒にコットンを配る予定

という。渡邊ヒカルさんは「コットンが予想以上に大きくなっていた。延岡のことを知つてもらひ、少しでも興味を持つてもうしたい」と話した。

この日に収穫したのはコノハナロードに植えた約800本。同応援隊のコットンロードプロジェクトクリーチャーの武田弘子

2018.10.26